資料３

ISO/COPOLCO（消費者政策委員会）第 31 回総会等報告

日時：平成 21 年 5 月 25 日（月）～5 月 28 日（木）
場所：インド・ニューデリー
出席者：枝村　暢久　　経済産業省　産業技術環境局　基準認証政策課
　　中久木　隆治　　財団法人　日本規格協会　規格開発部消費者関連標準化推進室
スケジュール：

日時	時間	会議名
5 月 25 日（月）	9:00 – 10:00	スコープ検討タスクグループフリンジ会合
	10:00 – 12:00	製品安全ワーキンググループフリンジ会合
	10:30 – 12:00	消費者参加ワーキンググループフリンジ会合
	12:00 – 13:00	COPOLCO 発展途上国グループ（DCCG）フリンジ会合（不参加）
	14:00 – 16:00	優先課題ワーキンググループフリンジ会合
	16:30－18:00	グローバル市場における消費者保護ワーキンググループフリンジ会合(エネルギー持続性タスクグループを含む)
	16:00－17:00	CI Members meeting フリンジ会合（不参加）
	17:00 – 18:00	アジア消費者標準化参画ネットワーク（ANCO）フリンジ会合
5 月 26 日（火）	10:00－17:30	ワークショップ
5 月 27 日（水）	8:30 – 17:00	ISO/COPOLCO 総会
5 月 28 日（木）	8:30 – 18:00	ISO/COPOLCO 総会

主な議事：
①ISO への依頼・報告事項

- ISO が社会的な問題に関する取り組みを進めていることを踏まえ、現在の COPOLCO のスコープ拡大が可能かどうかを COPOLCO 自身で検討して欲しいとの ISO 理事会からの要請については、これまで COPOLCO が常に消費者の視点で社会的な問題について取り組んできたことから、COPOLCO としては、「現在の COPOLCO の委任事項を維持することを要望する」と回答することとした。

- リソース不足が消費者の標準化活動に参画する障害となっていることを踏まえ、COPOLCO は ISO に対し、消費者参加をサポートするための Funding（基金）の設立について検討することを要請することとした。

・ 「持続可能なエネルギータスクグループ」によって行われた検討結果について、スマートメータの標準化可能性調査の実施、ビルのエネルギー効率化のための標準化、バイオ燃料の持続可能性のためのガイドラインの開発等、取りまとめられた提案について、COPOLCO は ISO に対し、検討することを要請する。

②新たな検討テーマ

・ 消費者購入保証にかかる標準化について、アンケート結果における規格化への賛同が多かったことを踏まえ、規格のスコープ等、NWIP が可能かどうかの検討を行う。

・ コールセンターが消費者の不満の種となっていることを踏まえ、次回 COPOLCO 総会において検討ができるよう、本文やの既存の規格等の調査を行い、提案書をまとめる。

・ 組み立てやメンテナンスに関する取扱説明書の標準化について、取扱説明書の既存規格である IEC62079 の改正案へ盛り込むよう IEC に要請するとともに、ISO/IEC Guide37 の改正案が発行後、早期に本件を盛り込むための検討を行う。

・ 今回の総会に併せて開催された、ワークショップにおける互換性に関する発表及びグループディスカッションを踏まえ、ガイド又は規格の開発等のための取り組みを進める。

③その他

・ 次回 COPOLCO 総会は BSN（インドネシア）がホストとなりバリ島（又はジャカルタ）で開催

（別紙）

各会合報告

◆スコープ検討タスクグループフリンジ会合報告

開催日時:2009 年 5 月 25 日(月) 9:00-10:00

議事内容:

1. 理事会から要求のあった、消費者の社会的問題への関心の上昇を踏まえた COPOLCO のスコープ拡大について、過去の経緯として、各国 NSB へのアンケート結果、COPOLCO 議長会合での議論、タスクグループの結論について報告がなされた。
2. 審議の結果として、COPOLCO の委任事項(Terms of Reference)は変更しないこと、消費者についての定義の変更の必要性がないこと、COPOLCO は消費者に焦点をあてた取り組みを行うことについて確認がなされた。
3. 一方、公共利益に関心を持つ組織(Public Interest Organization(NGO 等))が有する消費者問題に関する知見は、COPOLCO に大いに役立つことから、必要に応じてリエゾンという形式で参加を求めることとなった。リエゾンの対象及び参加の基準については、引き続き検討することとなった。

◆製品安全 WG フリンジ会合報告

開催日時：2009 年 5 月 25 日（月）10:00-12:00

議事内容：

１．ISO8124 Safety of Toys について

ISO8124 がどの程度国内規格として受け入れられているかに関するアンケート調査結果について報告があり、回答率が少ないこと、特に途上国からの回答が少ないことから、DEVCO の協力の下、途上国メンバーからさらに回答を求めることとなった。また、ISO8124 については、欧州、アメリカ等の技術基準（法律等）と異なることが問題であるとして、整合性の可能性について検討することとなった。

２．ISO/IEC Guide51 について

将来の本ガイド改正の際に、Rational Statements（規格内の記載に関する論理的根拠）を規格に盛り込むことを推奨する規定を入れることが適当かどうかについて、各メンバー国に意見照会を行った後、TMB に検討を要請することとなった。

３．取扱説明書の適切性（組み立て、メンテナンス、使用）について

本観点に関するアンケート調査結果について報告があり、その結果を踏まえ、取扱説明書に関する既存規格である ISO/IEC Guide37、IEC62079 との関係も踏まえ、検討がなされた。審議の結果として、ISO/IEC Guide37 は現在改訂中であり、既に 6 年も

の期間を費やしていることから、現在の改正案の成立に注力すること、及びIEC62079は現在改訂の議論が始まった段階であり、組み立て等の観点を含めて改正案を作成するようにIECに検討することを求めることとなった。

４．ナノテクノロジーについて

消費者の観点からナノテクノロジーを検討するタスクグループがTC229の中に設立され、2009年6月に、そのタスクグループ活動の方向性やスコープが検討されることが報告された。

５．製品安全と製品リコールついて

PC243（製品安全）の第1回会合が2009年8月6、7日にカナダで開催されること、PC240（製品リコール）の第1回会合が2009年5月4日にマレーシアで開催されたこと及び第2回会合が11月2、3日に韓国で開催されることが報告された。

また、PC240への参加国が少ないことについて懸念があることが報告され、各国に参加を要請することが了承された。

◆消費者参加WGフリンジ会合報告

開催日時：2009年5月25日（月）10:30-12:00

議事内容：

1．オンラインディレクトリーについて

ISO戦略の実行のため、COPOLCOは、COPOLCOメンバー間での消費者の標準化参加促進に関する情報の共有を目的として、オンラインディレクトリーを開発したことについて報告があった。また、オンラインディレクトリーを利用して積極的な情報提供が望まれるとの指摘があった。

2．パンフレット(消費者参加に関する情報ガイド)の開発について

本パンフレットは、標準化団体向けに、標準化への消費者参加を実現するための手段を記載したものであり、現在タスクグループにて開発している現況について報告、意見交換が行われた。

3．Key Performance Indicator(KPI)について

KPIとは、COPOLCO活動状況を評価するための指標として検討が進められており、現在のKPI案（COPOLCOメンバー数、総会に出席しているCOPOLCOメンバー数等）について報告、意見交換が行われた。

4．COPOLCOへの参加促進策について

Newsletter の発行、COPOLCO 紹介プログラム、トレーニングなど、COPOLCO への参加促進策についての報告、意見交換が行われた。

◆優先課題 WG 会議報告

開催日時：2009 年 5 月 25 日（月）14:00-16:00

議事内容：

1. Counterfeiting and fraud（偽造・模造）について

本テーマは消費者の信頼性及び安全性の確保の観点から、COPOLCO としても重要なテーマであることから、同テーマの規格開発を行う PC246 及び PC247 の活動状況を踏まえ、COPOLCO としてどのような取り組みが可能か非公式な検討委員会を設置し検討することとなった。

2. 高齢者・障害者の標準化参画促進について

EU 委員会では、CEN/CENELEC Guide6（ISO/IEC Guide71）の活用促進に向け、予算化をして、教育・訓練等を行っていること、また、高齢者・障害者の標準化活動への参画についても取り組んでいることが報告された。

3. Second-Hand Goods（中古品）について

PC245 の第 1 回会合が 9 月に開催される予定であること、事務局が中国、議長が中国及びカナダと決まったことについて報告された。

◆グローバル市場における消費者保護ワーキンググループフリンジ会合報告（エネルギー持続性タスクグループを含む）

開催日時：2009 年 5 月 25 日（月）16:30-18:00

議事内容：

1. 消費者購入保証（Guarantees/Warranties）について

消費者購入保証に関する各国アンケート結果について報告があり、国際的なガイダンス規格としての NWIP 提案の要望が強いことから、タスクホースを設立し、アンケートのコメントも踏まえて、スコープや適用範囲等について検討を行うこととなった。

2. Call Centers（Consumer contact centers）について

南アフリカより、ビジネスモデルとして、多くの Call Center がアウトソーシングされており、Call Center に関する消費者の苦情が増えていることから、Call Center に関する標準化開発の提案があり、南アフリカの国家規格、EU 規格、オーストラリアでの検討状況等を踏まえ、タスクグループを設立して提案内容について検討することとなった。

3. 持続可能なエネルギーについて検討するタスクグループ報告について

2008 年の韓国・ソウル総会のワークショップ（将来的な持続可能なエネルギーの実現に向けて、消費者はどのような影響を与えられるか）を踏まえ設立された、持続可能なエネルギーについて検討するタスクグループの報告がなされた。

タスクグループの報告の概要は次のとおり。

- SAG-E（Strategic Advisory Group on Energy）への COPOLCO 代表参加の重要性
- 「エネルギーサービスの評価と改善のためのガイドライン」の NWIP 提案のサポート
- スマートメーターに関する国際標準化の可能性調査について ISO へ要請
- ISO14021（タイプⅡの環境ラベリング）及び ISO14025（タイプⅢの環境宣言）の見直しを ISO/TC207 へ要請
- 新規及び既存ビルのエネルギー効率に関する国際規格化のサポート
- 再生可能エネルギー製造装置の国際規格化の可能性調査について ISO へ要請
- バイオ燃料に関するグローバルに持続可能なガイダンス規格の開発検討について ISO へ要請

◆アジア消費者標準化参画ネットワーク（ANCO）フリンジ会合報告

開催日時:2009 年 5 月 25 日(月) 17:00-18:00

議事内容:

参加国:韓国、サウジアラビア、オーストラリア、タイ、インドネシア、中国、フィジー、マレーシア、日本、CI(Consumer International)

1. マレーシアより、2009 年 2 月に開催された ANCO ワークショップ(テーマ:アクセシブルデザイン)の結果について報告が行われた。

2. 参加国より各国における消費者関連の標準化活動の状況について報告がなされた。

3. 今後の ANCO ワークショップの進め方について検討を行い、来年もマレーシアにおいて開催することとなった。なお、テーマ及び日程については、今後の検討となっている。

◆COPOLCO ワークショップ報告

開催日時：2006 年 5 月 26 日（火）9：30～17：30

議事内容:

1. テーマ

互換性(Interoperability)

～Does it fit, will it work, and can standards help～

2. ワークショップの概要1(講演)

（１）Dr.T.S.Mohan 氏（Infosys Private Ltd, India）

消費者は多くの「互換性」のない製品・サービスに囲まれており、その解決のためには、標準化団体、政府、消費者団体の連携した取り組みが重要。

（２）Mr.Allan Asher（BSI, UK）

情報通信分野においては、規格化が互換性の問題解決に貢献することで、これまでの競争原理に基づいた多様性優先という方向性は変わっていくであろう。

（３）Mr.R.A.Venkitachalam（Underwriters Laboratories, India）

偽造については、消費者にとっての安全という側面と、経済的なロスという側面の問題を有しており、互換性の問題解決に貢献する規格の存在は重要。

（４）Mr.Steve Mutkoski（Microsoft, USA）

互換性を確保していくことが必要不可欠となっている今日の情報技術分野において、規格は一つのツールとして重要な役割を果たす。情報技術分野の規格開発において、消費者は、アクセシビリティ、プライバシー、セキュリティなどの観点からの貢献が可能。

（５）Ms.Gabriela Fleischer（DIN, Germany）

携帯用電子機器（携帯電話、デジタルカメラ、ラップトップ PC 等）の電力供給機器の互換性の確保は、消費者に利益をもたらすと同時に、環境にとっても良い。

（６）Ms.Indrani Thuraisingham（CI KL Office, Malaysia）

ユニークな電子文書フォーマット（DRM、TPM 等）により、情報へのアクセスが制限されることになるなどの不利益を消費者が被っており、条約等でこうした制限を回避するような取り組みが求められる。

3. ワークショップの概要2(ブレークアウトセッション)

消費者用製品、情報通信技術分野の 2 つのテーマについて、各 2 グループに分かれ、互換性の問題や規格化の必要性等についてのグループ討論が行われ、消費者における互換性の重要性の認識、互換性の必要な製品等の抽出などが明らかにされた。

◆ISO/COPOLCO 総会報告

開催日時:2009 年 5 月 27 日(水)～5 月 28 日(木) 9:00-18:00

議長：Mrs. Jai-ok Kim（韓国）

事務局：Mrs. Dana Kissinger-Matray（ISO/CS）

議事内容:

各 WG の報告が行われた。WG 以外の主な議論は次のとおり。

1. ISO 戦略 2005-2010 について

ISO 戦略 2005-2010 に基づく、COPOLCO の実施状況について報告があった。

また、イスラエルより、消費者参加促進のためには、ISO による Funding（資金的支援）が必要であるとの提案があり、DEVCO の Funding スキーム等を参考に、消費者参加 WG の下にタスクグループを設置し、検討を行うこととなった。

2. 次回総会開催について

2010 年 COPOLCO 総会については、BSN（インドネシア）から誘致の提案があり、インドネシアのバリ島（又はジャカルタ）で開催されることとなった。なお、時期については、10 月の標準化月間に合わせて開催したいとの要望であったが、10 月には IEC 総会等が開催されることもあり、今後の検討で決定することとなった。

また、2011 年 COPOLCO 総会についても、BSI（イギリス）から、イギリス消費者参加 60 周年のため、COPOLCO 総会を誘致したいとの提案があった。